

先月義父が亡くなり、実父が入退院を繰り返しました。いつか人は亡くなり、年齢とともに身体のアチコチを治さなくてはならなくなるものだと、改めて思い知らされました。今という時間をしっかり大切にしようと、こんな時はつくづく思っています。

同じく先月のこと。かつて担任をした、特に記憶に残っている生徒とスタバでお茶しました。「これから3年間をどのようにして〇〇と向き合っていくか、頭が痛い」と入学式のあった日の日記に記しています。人の話は全く聞かず（に見えた）、出している指示にはことごとく反抗し（ているように感じた）、3年間同じ持ち上がりのクラス運営を考えると気が重くなっていました。今ではその時の日記が嘘のように、いろいろなことを彼から教えられることの多さに驚きです。

今まで勤めていた職場を離れ、自分のやりたいことを今一度探すため、このコロナ禍に東京へ向かったのが今年の2月でした。もうすぐ30歳の彼も沢山悩んで決心したことと
思い、上京する前には背中を押してから、約半年後のスタバでの一言。

「先生、やっぱり一生懸命って大事やなあ。気付いたら、頑張っている人が自分の周りに集まっていて、自分をサポートしてくれる。」株式会社を立ち上げて代表取締役になり、これからも一層頑張るつもりだとキラキラ輝く瞳で語ってくれました。

卒業後、定期的に近況報告をくれる彼は会う度に腰が低くなっていくように思うけれど、そんな姿勢も含め、10月の校長室だよりに書いたことを思い出させるような一時でした。

辛いこともあった先月だけど、一寸だけでも前向いてがんばろと思えた時間でした。